



感動した 映画「劔岳 点の記」の試写会②

木村大作監督 ★いよいよ6月20日 全国ロードショー★

映画「劔岳 点の記」応援企画

■逆境に耐え、真摯に本務を全うする姿に感動

映像そのものがまさに自然であり、自然の偉大さとその美しさに感動した映画でした。

自然の中で、その摂理に従って測量という仕事を粛々と遂行していく柴崎測量隊には、自然が持つ厳しさと尊さが感じられました。日本の自然美にこれほどまで迫った映像を見るのは初めてです。

新田次郎原作『劔岳〈点の記〉』とは別な木村大作流の『劔岳 点の記』が表現されていました。私は、最初のうち両者の描写の違いばかりを追っ

ていましたが、途中から両者が描きたかった真髄は同じであることに気が付き、木村流の『劔岳 点の記』をじっくりと味わいました。

小説『劔岳〈点の記〉』および映画『劔岳 点の記』で新田次郎も木村大作監督も描きたかったことは、至上命令により、辛酸を舐めた苦闘の結果に対して、陸地測量部の上層部が下した身勝手に低い評価を知らされるという逆境(劔岳登頂のみではなく組織上層部からのこのような不評なども含め)に耐え、真摯に本務を全うし

ていく姿を賞賛し、限界に挑戦するとは何かを私たちに問いかけているように感じました。

新田次郎も気象庁技官として同様の苦闘を経験し、木村大作監督も常に現場主義を貫くために数多くの逆境に耐えてきたと想像します。彼らは現場という第一線の世界を知らない組織上層部に対する反骨精神を表現したかったのではないのでしょうか。
(社)日本測量協会理事 瀬戸島 政博

■人から人に伝わる映画です

さて、過日、『劔岳 点の記』の試写会の際にはご配慮いただきまして誠にありがとうございました。

当日は、朝10時から本学学長中村とともに観賞させていただきました。

中村もおもしろかったと申しており、あれはヒットするのではないか

と感想をもらしておりました。

私の個人的な感想としては、2時間19分という長時間ではありましたが吸い込まれ、魅了されました。

出演者も少なく、時代背景も地味でかつ静かな映画ではありましたが、その静けさの中にも力強くパッション

を感じました。そしてなにより景観と、音楽が美しい。

正直、測量に対してまったくの素人ですが映画を通してその重要性と誇れる仕事であると痛感いたしました。

映画を見てからもっと知りたくな

り、貴会が『測量』で取り上げられて
いらっしやる『『劔岳 点の記』をより
よく理解するための解説』を拝見して
おります。

とても勉強になり、6月の公開には
もう一度映画をじっくりと観ることが
できます。おもしろさ倍増のアイテ

ムとして拝読中です。

この映画はきっと人から人へと伝
わって広報されるのではないでしょう
か。観た人はきっと“おもしろい”と
納得できるはず。中村とともに私も
微力ではございますが、広報活動を
させていただきます。まずは本学の

都市工学科の教員にも勧めたいと存
じます。

今一度、映画の成功を心から祈念
いたしております。

東京都市大学(旧武蔵工業大学)
総務課秘書室 金谷 朗子

■月刊『測量』の記事がいくつも思い出された

おかげさまで昨日ひとりで試写会
にお邪魔してまいりました。

やはりロケの妻さはお聞きしていた
以上に聞きしに勝るという感じでした
し、現地を知る者としてはよくあんな
ところで撮影ができたものだと感嘆
いたしました。

映像を見ていると、月刊『測量』の

記事がいくつも思い出されましたし、
いい役者さんたちで映像が引き立っ
たとも思います。

強いて挙げれば、あまりにロケが素
晴らしく迫力があつたため、映画とし
てのメッセージ的なものが薄くなって
しまうことが逆効果になる可能性が無
きにしも非ずかという気がしましたが、

それすらも圧倒されるでしょう。

入場した後に木村監督にご挨拶でき
る機会に恵まれ、私の父親との話題で
少し盛り上がることができました。

あらためて感謝申し上げ、取り急
ぎご報告いたします。

国際航業株式会社 広報グループ長(当時)
高田 一穂

■測量を学んでいる高校生・専門学校生に見てもらいたい

ありがとうございました。感動し
ました。

文章では伝わってこない測量技術
者の心が伝わってきました。原作を
超えていました。

何かを感じていただきたいと、開
会の木村監督は挨拶されました。

登山家小島烏水さんが柴崎測量官

達の仕事をみて「われわれは登るのが
目的だが、あなた方は登ってからが
仕事だ」といい、劔岳に登頂し測量を
成し遂げたとき、手旗により送った
賞賛の言葉には相手の努力・決断力・
団結力を認める暖かさを感じました。

「地図づくりの記録は、家族たちの
記録でもある」すばらしい言葉です。

測量には測量官のほかに測夫、人
夫という測量作業を支える人がおら
れ、それぞれの力を発揮されていた
かがわかりました。

測量を学んでいるすべての高校生・
専門学校生に見て欲しい、封切りが
待たれる映画です。

中央工学校 歴史館 館長 原田 静男

■長期ロケのスタッフに感服

人間として生きる意味は何か？行
動する目的は何か？改めて自分自身
に問いかけたい。

共有する目的のために過酷な自然
に挑む仲間たちは尊敬と信頼の絆で
結ばれている。そしてその姿を静か
に見守っている家族愛。

現代社会で失いかけている人間と

しての生きざまを考え直させる映画で
ある。

CGなどのバーチャル映像やデジタル
サウンドが当たり前の時代、映像
は実写、音楽は生演奏とのこと。

バーチャルが偽装とまでは言わない
が、本物の追求にとことんこだわ
ったのが木村監督。そして長期ロケー

ションを果たしたスタッフに感服。

環境破壊が進む今、すばらしい自
然の姿が観られる恐らく最後の映画
となるのではないか。人間として
あるべき姿、貴重な自然の姿を是非
観て欲しい映画である。

株式会社トブコン デザイナー 田口英行

■『劔岳 点の記』を見て

この映画では、新田次郎の同名の小説にはない迫力とスケールの大きさが感じられ、大変感動しました。また山の美しさと厳しさの映像も大変良かったと思います。

浅野忠信が主人公の柴崎芳太郎を演じたが、寡黙で通し、華々しい活躍と思えることも淡々とこなした演技は、地図作りが家族、地域、習慣、職場、時代、自然などすべてに支えられているという木村大作監督の意思が表れていると感じました。それは最後に出演者の名前が、この作品を

原作者にささぐ「仲間たちより」として、同じ字大でほぼ同じ間隔で差がなくできてきたことにも象徴されていると思いました。



(株)写測 生産技術営業本部 技師長

三村 清志

■もう一度映画をじっくり見に行きます

立山曼荼羅、行者、長次郎沢からの登攀、自然の過酷さ、立山～劔岳のすばらしい映像を堪能しました。

迫力抜群でした。解説レジメの劔岳の写真、協会さんの解説も良かったです。

6月封切りの際、もう一度じっくり見に行きます。

(株)創建 技術部長 田口 宏

■地理情報に携わる学生が知るべき歴史的背景

私は地理情報に関する研究に従事する学生であるが、これまでに測量の歴史を学ぶ機会はなかった。そのため、現代では地理情報が爆発的に整備されてきたこともあって、無意識のうちに、地理情報が湯水のように湧いてくるような錯覚に陥っていた。

しかし、本作を鑑賞して、そのような錯覚は払拭された。本作は、およそ100年前に実施された日本地図の空白地帯の測量の物語である。当時の技術で困難を極めながらも測量が敢行されたからこそ、地理情報は次のステップに進み、現代に至ったことを理解させられた。

そのような理由から、本作は地理情報の起源と歴史に触れるきっかけとして最適だと思う。地理情報の次世代に携わる学生には是非とも薦めたい。

東京大学空間情報科学研究センター

博士後期課程 宮崎 浩之

■業界に身を置く自分がもっと頑張らなくてはいけない

映画『劔岳 点の記』を拝見し、まず驚嘆したのは、その映像美です。大地と空と光と風、自然がおりなす素晴らしい情景に目を奪われました。撮影にはさぞ多くのご苦労があったこと

かと思っています。

測量に関しても非常に忠実な描写がなされており、当時の測量手の苦労を窺い知ることができました。

一つのことを成し遂げようとする

「仲間」の奮闘に、測量業界に身を置く自分としても、もっと頑張らなくてはならない、と感じた次第です。

(株)パスコ 社長室 広報宣伝グループ

阿部 直樹

■自然も人間もなんて美しいのだろう!

『劔岳 点の記』の映画が制作されていることを新聞紙上で知ってから、完成を待ちこがれていた。期待に違わずどころか想像を超える迫力で、息を詰めて観ていた。風景の美しさと雪山の過酷さは言葉で言い尽くしよ

うもない。その中で、与えられた仕事に対し気負わず冷静に、また悩みながら立ち向かっていく姿は、嘗ての日本人の仕事に対する姿勢の原型を見た気がした。ただその時の任務を着実に誠実にこなすためだけに一歩

一歩と脚を運ぶ。大きな荷を背負った背中の頼もしいこと。自然も人間もなんと美しいだろう。

元攻玉社短大 助教授 **関 延子**

■劇場でこそ堪能できる

劔岳 点の記

山の迫力、成し遂げた心の軌跡

劇場を支配する山の迫力。絶対的な自然が与える試練に揺られながらも測量基点の設置を追求する小さな人間の静謐な決断と細心の現実的行動。凍てつく寒さが伝わるワイドな山頂からの展望画にクラシック音楽が激しく共鳴し最後まで鑑賞者をひきつけたが、終映後、たとえ無音でも圧倒されたかなと思ったのも余韻だった。

登山者のいない時を選び荒れがちな山の気象の中でこれほどの自然実

写とロケ撮影がされたと思うと、この映画作り自体も開山に劣らない努力が注ぎ込まれたに違いない。映画は物語と作品づくりの2重の努力の結晶だ。

TVやホーム

サイズの映像ではなく劇場設備で堪能できる作品。



財団法人 日本建設情報総合センター

今岡 亮司

■映画の記事を書きました

劔岳の完成おめでとうございます！昨日、観てきました。とてもきれいな映像でした。あれを撮るのは相当、大変だったと思います。遠景から撮ったり、時間もかかったことでしょう。それと宮崎あおいはやっぱり可愛いですね。これまで全然興味がなかったのですが、認識を変えました。香川照之もいい味出していました。さ

すがです。ストーリーは単純ですが、一般の人たちにどう受け止められるか楽しみです。

国土交通省の中尾技術総括審議官も昨日、鑑賞されたそうです。山好きにとってはたまらない映画のようです。非常に良かったということで一致しました。ただ、中尾さんは山岳部出身ですから、歩き方や荷物の担ぎ上

げ方で、俳優さんの荷物が軽いのが気になったそうです。

試写会について日刊建設工業新聞に記事を書いておきました。6月公開に向けた監督の全国行脚の話も入れました。

日刊建設工業新聞社 記者 **佐々木 修**

5月号p33のこの欄に、山岡光治氏の試写会感想を掲載しました。ご本人の許可を得て同氏のブログから編集係が引用掲載しました。その際に、引用掲載の後半部分はブログ読者向けのもので、本誌に掲載する文章としては相応しくないもののご指摘がありました。またタイトルは、ブログ掲載写真に付くものでしたことを等をお詫びいたします。